

NEWS RELEASE

No.17-16

2018年1月17日

公益財団法人 損害保険事業総合研究所

2016年度本科講座・特別成績優秀賞 表彰式 開催報告

公益財団法人損害保険事業総合研究所は、2018年1月15日（月）、東京 神田駿河台 山の上ホテルにおいて、2016年度本科講座・特別成績優秀賞の表彰式を執り行った。

この賞は、2016年7月に開講し、1年余りの期間実施した本科講座の修了者713名のうち特に優秀な成績を修めた各クラス上位3名、計15名に贈られるもので今回で3回目となる。当日は、各所属会社の人事関係者が列席し、弊所佐野理事長から受賞者一人ひとりに表彰状が授与された。

理事長からは、「損保総研は1933年に当時東京海上の会長だった各務鎌吉氏の発意により、業界共通の課題である人財育成を担う機関として設立された。各務氏は、目に見えない商品を扱う保険は信用と人材が財産であり、森羅万象つまり我々の身の回りのものごとすべてを対象とする損害保険がいかに重要な仕事かということをおっしゃられた。今、なぜ我々がこの業界にいるのか、そして、なぜ本科講座で保険の考え方、商品、歴史といった基本を学ぶ必要があるのか、この表彰式を機に今一度振り返っていただきたい。ルネッサンスの三大発明は『羅針盤、活版印刷、火薬』であるが、知の三大発明を「株式会社、簿記、保険」という人がいる。保険は学問、叡智なくしてできない仕事といっても過言ではない。京都大学客員准教授 瀧本哲史氏が大阪の四天王寺中学で講演した「何故勉強するのか」という話を引用する。結論からいえば、我々が学ぶ意味とは既にある知識や技術を活用して、将来に向かって飛躍するための基本的な財産を身につけるということ。人工知能が導入されること等によって保険会社の十年後の姿は読めないが、本日の受賞者の中にはその頃に会社の中心となり、新たな仕組みや考え方で会社をリードする方も出てくると思う。その飛躍に向けてこの講座で学んできたのだと考えていただきたい。是非、職場でも叡智を結集して学問と実務の調和を図り、それぞれの道で貢献していただきたい。」という祝福と激励のメ

メッセージが贈られた。

この表彰式の後、各所属会社の人事関係者を交えて受賞者との昼食会・情報交換会を行った。受賞者からは、「仕事を抱えながら本科講座を学習する上では、特にレポート作成が大変だったが、この受賞は今後の糧と自信になる。」「今まで日常業務で触れたことのない分野について学べた。この講座で使用した教材をこれからも活用したい。」「スクーリングでの他社社員と交流は貴重だった。」「全く係わりないと思う分野の仕事に将来携わることもあると自分の経験談を語る先輩がいた。このアドバイスを受け止めてこれからも幅広く学んでいきたい。」「同じ寮の先輩が頑張って本科講座に取り組む姿を見てきた。そんな先輩たちが今の会社や業界を築いてきた。これからは自分もそうありたい。」「保険の成り立ちや先人達がどのような判断をして今の形にしてきたのかなど、マニュアルに書かれていない考え方や背景について、わくわくしながら勉強を進めることができた。」「日常業務もルーツを知ると知識として更に理解が進むことを、営業現場での照会にそうした知識を踏まえて答えられた時に実感した。」「システム部門に在籍しており、OJTではIT分野を中心に学習してきたが、この講座で学んだことも活かして、AIの時代に損保業界で共存できることはないかを考えながら発展に貢献したい。」といったコメントもあり、和やかな雰囲気の中無事閉会した。

【受賞者】（敬称略）

A組	1位	トーア再保険株式会社	竹内 礼二
	2位	東京海上日動火災保険株式会社	松永 隆
	3位	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	崎岡 頌
B組	1位	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	山本 貴裕
	2位	東京海上日動火災保険株式会社	中村 淳
	3位	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	有田 一輝
C組	1位	損害保険料率算出機構（当時）	藤田 卓
	2位	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	廣瀬 友美
	3位	東京海上日動火災保険株式会社	馬殿 晃平
D組	1位	三井住友海上火災保険株式会社	橋詰 和紀
	2位	三井住友海上火災保険株式会社	金子 和樹
	3位	損害保険料率算出機構	野田 幸子
E組	1位	東京海上日動火災保険株式会社	今福 貴子
	2位	東京海上日動火災保険株式会社	畑中 翔太郎
	3位	東京海上日動火災保険株式会社	追立 賢太

【表彰式・昼食会兼情報交換会の様子】



本件に関するお問い合わせ先

〒101-8335 千代田区神田淡路町 2-9

公益財団法人 損害保険事業総合研究所

教育研修部 田中 TEL 03-3255-5512